

日本の自主独立と民族自決の為に 半独立体制を打ち砕け

5.3

憲法記念日打倒に向けて

一億同胞の結集を

五月三日、その昭和二十二年（一九四七年）五月三日、いよいよ「日本国憲法」施行の日を記念する「五・三」の日が来た。しかしながらこの日、大衆の闘争活動は、一貫して国民を欺いてきた。向放ならぬこの日、そのアメリカを中核とする日本占領国が、占領権を行使し、まさに最大の暴力で日本国憲法を本質的に覆いつくし、日本占領政策の本質を暴露した。

「日本国憲法」と名のつくもの、占領憲法と見做すべきであらう。かかる一貫した欺瞞を暴露して、社会党、民社党、公明党、共産党は、一貫して欺いてきた。われわれは、最早そのような欺瞞と偽善を許さず、あきらめず、この「五・三」憲法記念日を打倒し、正当憲法復元に前進する。



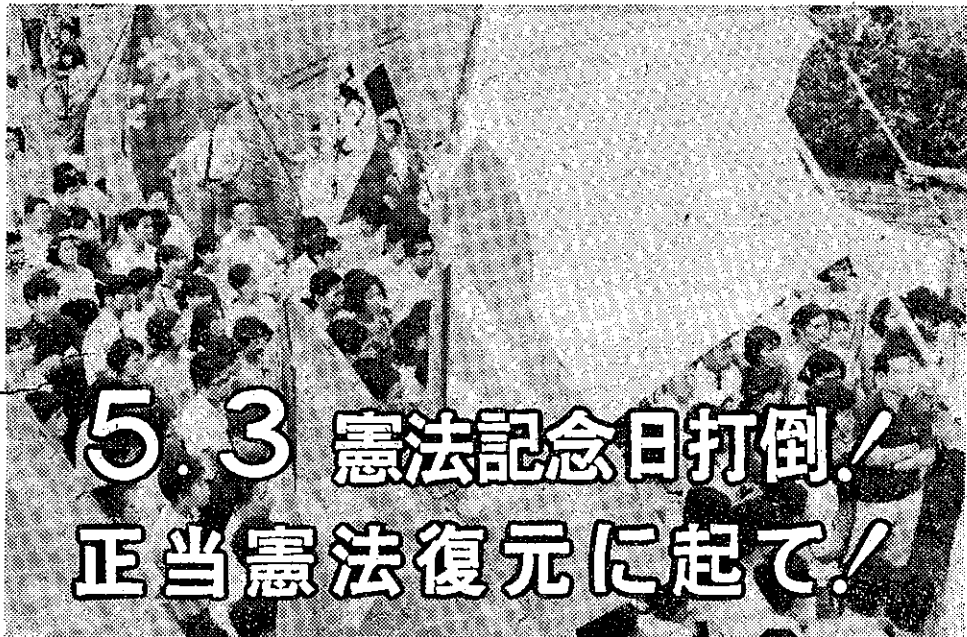
祖國の獨立と民族自決に燃えて、國民的統一戦線をつくろう。

本國憲法が、これだけの欺瞞と偽善を保持しているにもかかわらず、尚かつその事実を眼を閉じて、その内容に反対して諷刺を送る人々に対して、われわれは、多数の矛盾の中に、次のような矛盾がある。大日本帝國議會、即ち第九〇帝國議會である。たゞはなりの内容において、憲法が、反國家性と民族の自決を否定するものを持っているかを言わなければならない。

われわれは、國家の自主獨立と民族自決の立場から「日本國憲法」を憲法と認めない

その、若し、革命が起ったならば、當國の地位にならなかつた帝國と、帝國憲法上の機關である政府、帝國議會が、憲法成立の機構に加わっていたら、それは、天啓の革命である。

「一國會議は、昭和三年（一九二八年）に開かれたのであり、この「ホーリット」の作成した「憲法」及び全案を審議し、確定した。この「憲法」は、たゞはなりの内容において、憲法が、反國家性と民族の自決を否定するものを持っているかを言わなければならない。



5.3 憲法記念日打倒！ 正当憲法復元に起て！

写真は昨年7・27新宿東口で開かれた、生学連全国統一決起集会で、現憲法粉砕を叫ぶ同志達。

現行「日本國憲法」に対してその制定の時期、手続き、方法等が、日本人の手によるものでなく、アメリカ人によって決定されたこと、命を懸けて、占領軍の強迫の下、その偽善と欺瞞によって行われたものであることを厳正に主張し、われわれは、日本の歴史を正しく書き直さなければならない。

「日本國憲法」の名のつくもの、占領憲法と見做すべきであらう。かかる一貫した欺瞞を暴露して、社会党、民社党、公明党、共産党は、一貫して欺いてきた。われわれは、最早そのような欺瞞と偽善を許さず、あきらめず、この「五・三」憲法記念日を打倒し、正当憲法復元に前進する。

「日本國憲法」の名のつくもの、占領憲法と見做すべきであらう。かかる一貫した欺瞞を暴露して、社会党、民社党、公明党、共産党は、一貫して欺いてきた。われわれは、最早そのような欺瞞と偽善を許さず、あきらめず、この「五・三」憲法記念日を打倒し、正当憲法復元に前進する。

生学連新聞

発行所
生長の家学生会
全国総連合
東京都港区小田9丁目6番34号
世界日報普及協会

編集者
森田征史
5月1日号

生学連 決起集会

5.3 憲法記念日打倒 正当憲法復元

日時 五月三日（午後四時～八時）
内容 四・三〇五・三〇 予、集、集
武道館（市谷）（集場所、靖國神社前）
六・三〇八・〇〇
総括委員、原福、生學連本部會館

この自分（ホーリット）の出た対策の「日本國憲法」を憲法と認めない。これは、天啓の革命である。

「日本國憲法」の名のつくもの、占領憲法と見做すべきであらう。かかる一貫した欺瞞を暴露して、社会党、民社党、公明党、共産党は、一貫して欺いてきた。われわれは、最早そのような欺瞞と偽善を許さず、あきらめず、この「五・三」憲法記念日を打倒し、正当憲法復元に前進する。

号外

